

# 京丹後市の観光の現状と実態

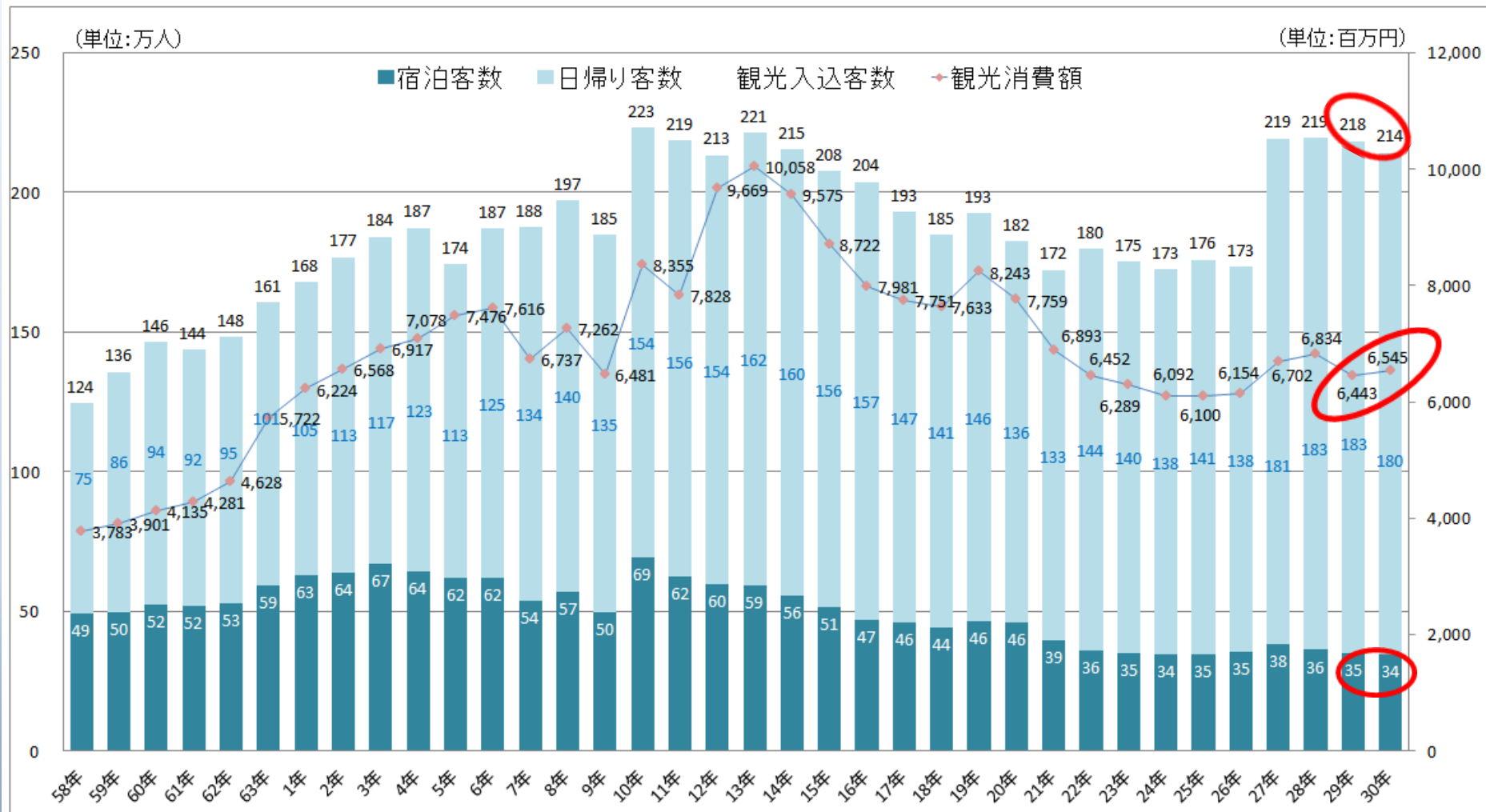
2019/09/30

京丹後市観光公社第1回観光まちづくりセミナー

京丹後市商工観光部観光振興課

# I 観光の現状

(1) **平成24年に173万人まで落ち込み⇒高速道路効果、海の京都戦略などで、平成27年には、219万人まで回復し、3年間維持。平成30年は、214万人で、前年比約2%の減。(宿泊客は約1%減、日帰り客は約2%減)。ただし、観光消費額は約1.5%の増となった。**



<出典> 京都府観光入込客調査報告のデータを元に京丹後市で作成

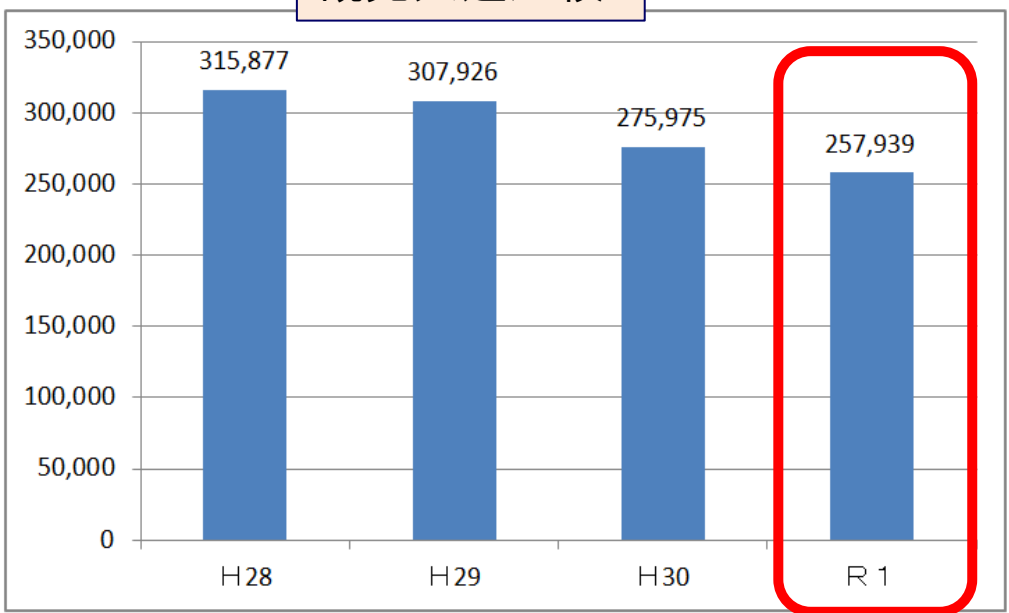
# (参考) 観光の現状・・・令和元年度のGWと7～8月の状況

(※調査対象19施設の比較)

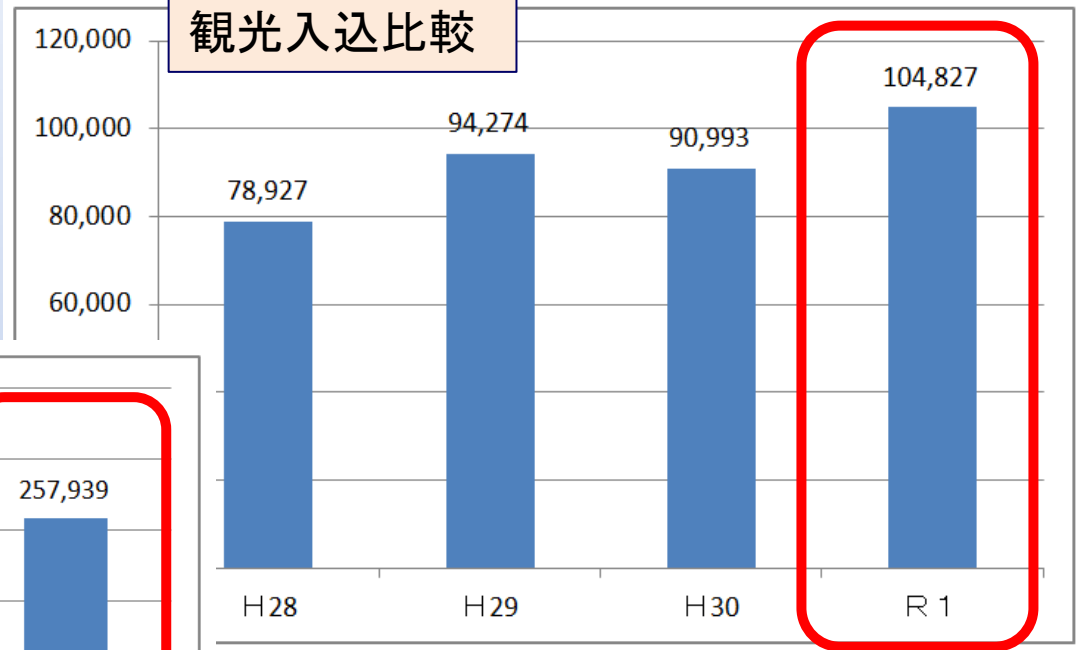
- (1) **令和元年度のGW**の観光入込は、好天に恵まれ10連休であったこともあり、**対前年比115%増**の10万4千人。
- (2) **夏季(7/1～8/31)期間中**は、7月の長雨が影響し**対前年比93%**となった。

16%  
16%

夏季期間中の  
観光入込比較



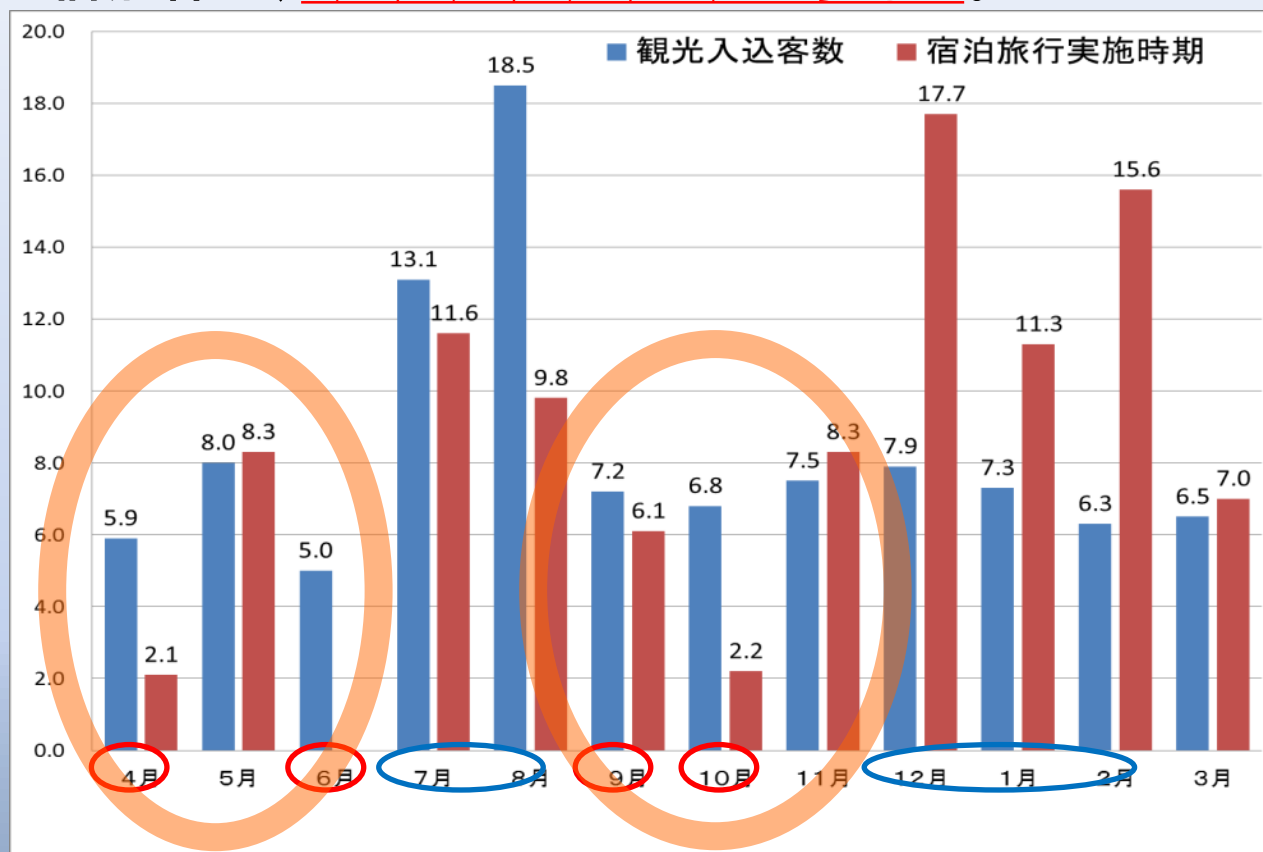
GW期間中の  
観光入込比較



# I 観光の現状

## (2) 夏、冬が中心の「二季型」の観光地。

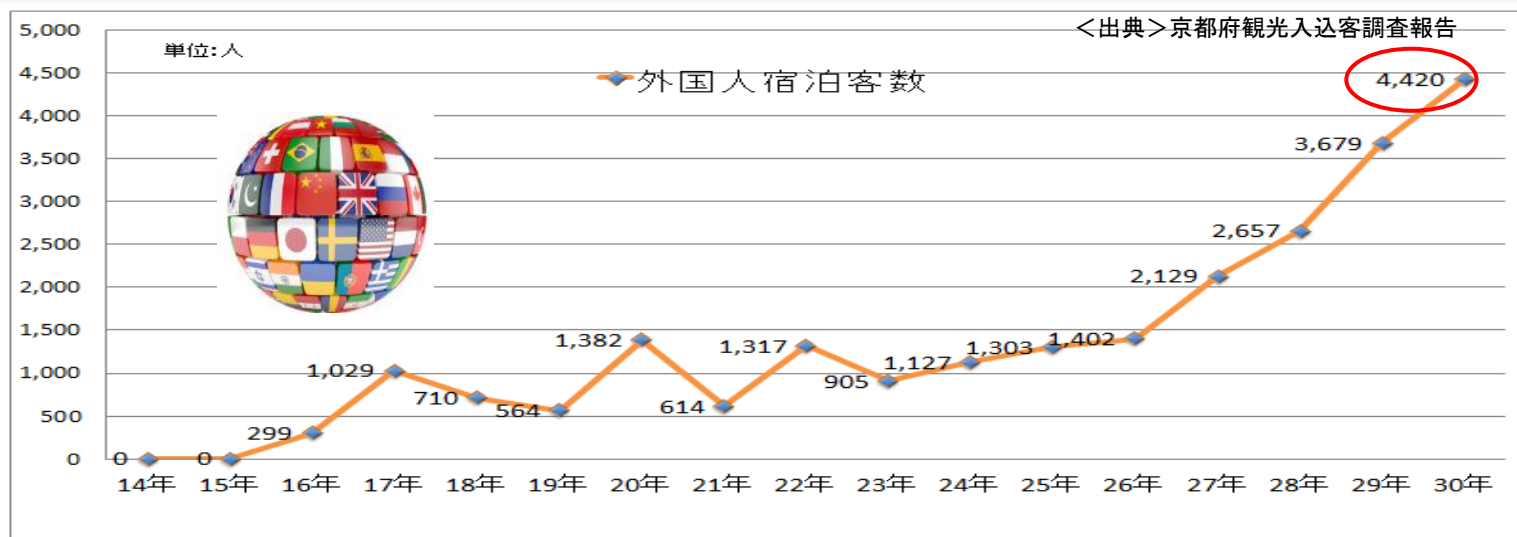
- ・夏季の海水浴、冬季のカニを軸とした「二季型」の観光地となっている。
- ・宿泊客は、4月、6月、9月、10月が少ない。



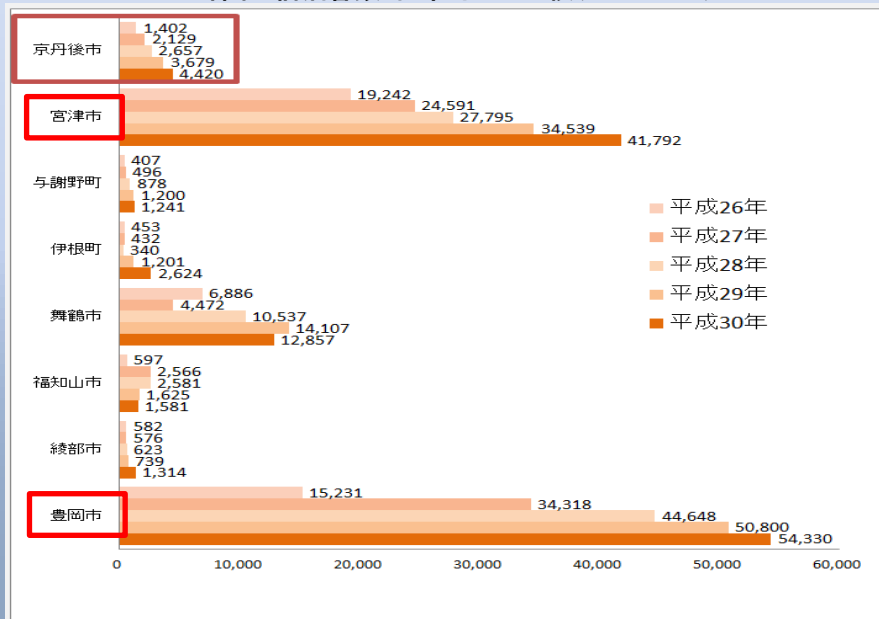
- ・観光入込客（平成28年1月～12月）※出典：京都府観光入込客調査報告書
- ・京丹後への宿泊旅行の実施時期（平成27年4月～平成28年3月）  
※出典：じゃらんリサーチセンター「じゃらん宿泊旅行調査2016」

# I 観光の現状

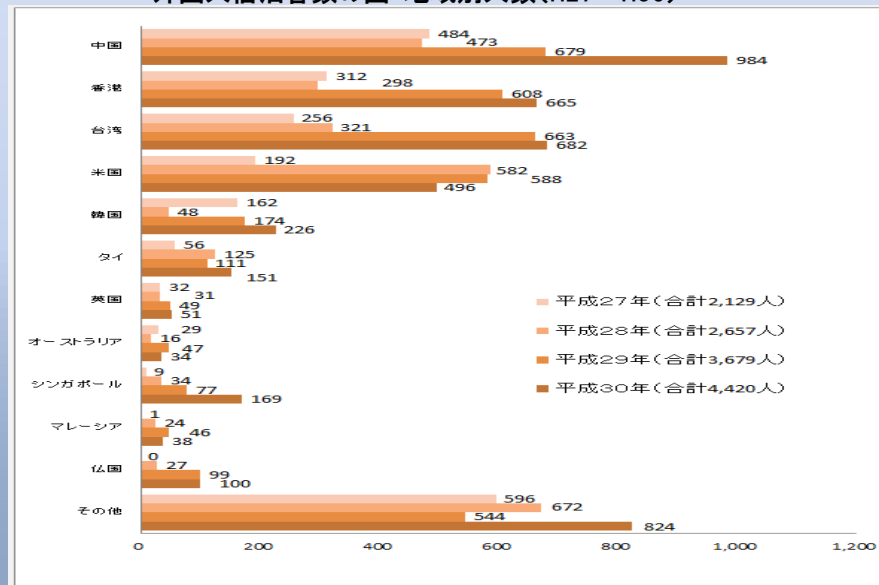
## (3) 外国人宿泊客は増加傾向。ただし、近隣市に比べて少ない。



外国人宿泊客数・他市町との比較(H26～H30)



外国人宿泊客数の国・地域別人数(H27～H30)



＜出典＞京都府観光入込客調査報告及び豊岡市の外国人宿泊者数の状況

# I 観光の現状

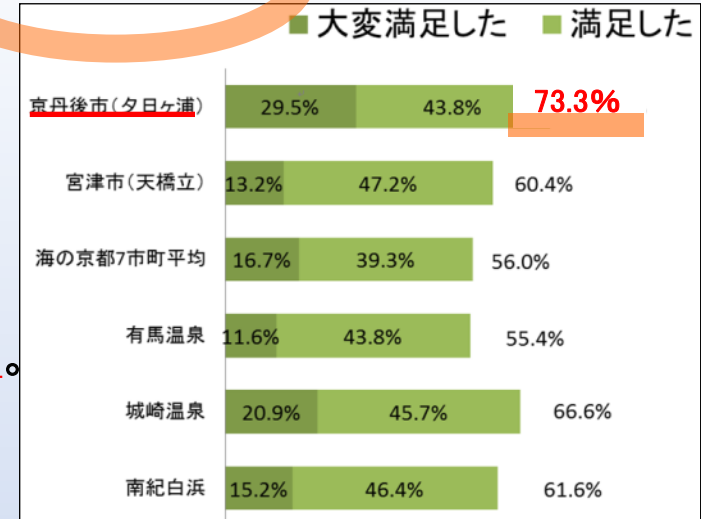
(4) 訪れた方の「満足度」は高い。

でも、観光地としての「認知度」は低い。

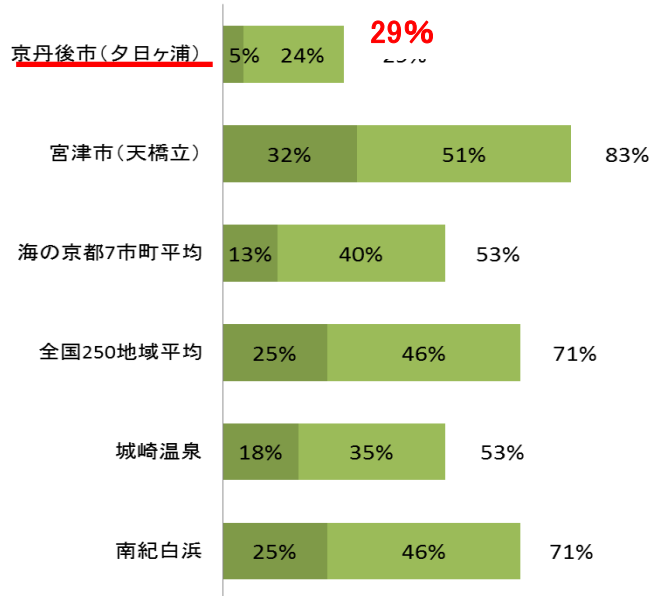
・全国での「観光地としての認知度」は29%。天橋立の83%などと比較すると低い。

・「トータル満足度」は68%と高く、特に「地域の料理・食材」「宿泊」の満足度は、近隣及び関西主要観光地と比較して高い。

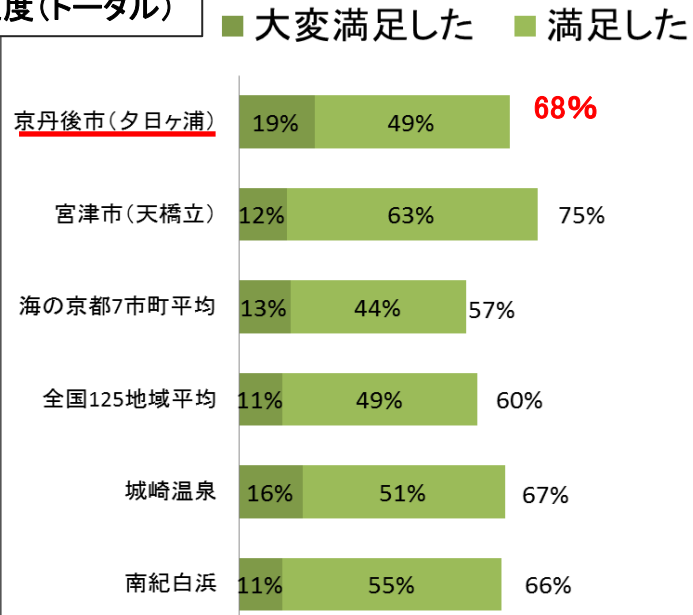
## 満足度(料理・食材)



## 認知度



## 満足度(トータル)

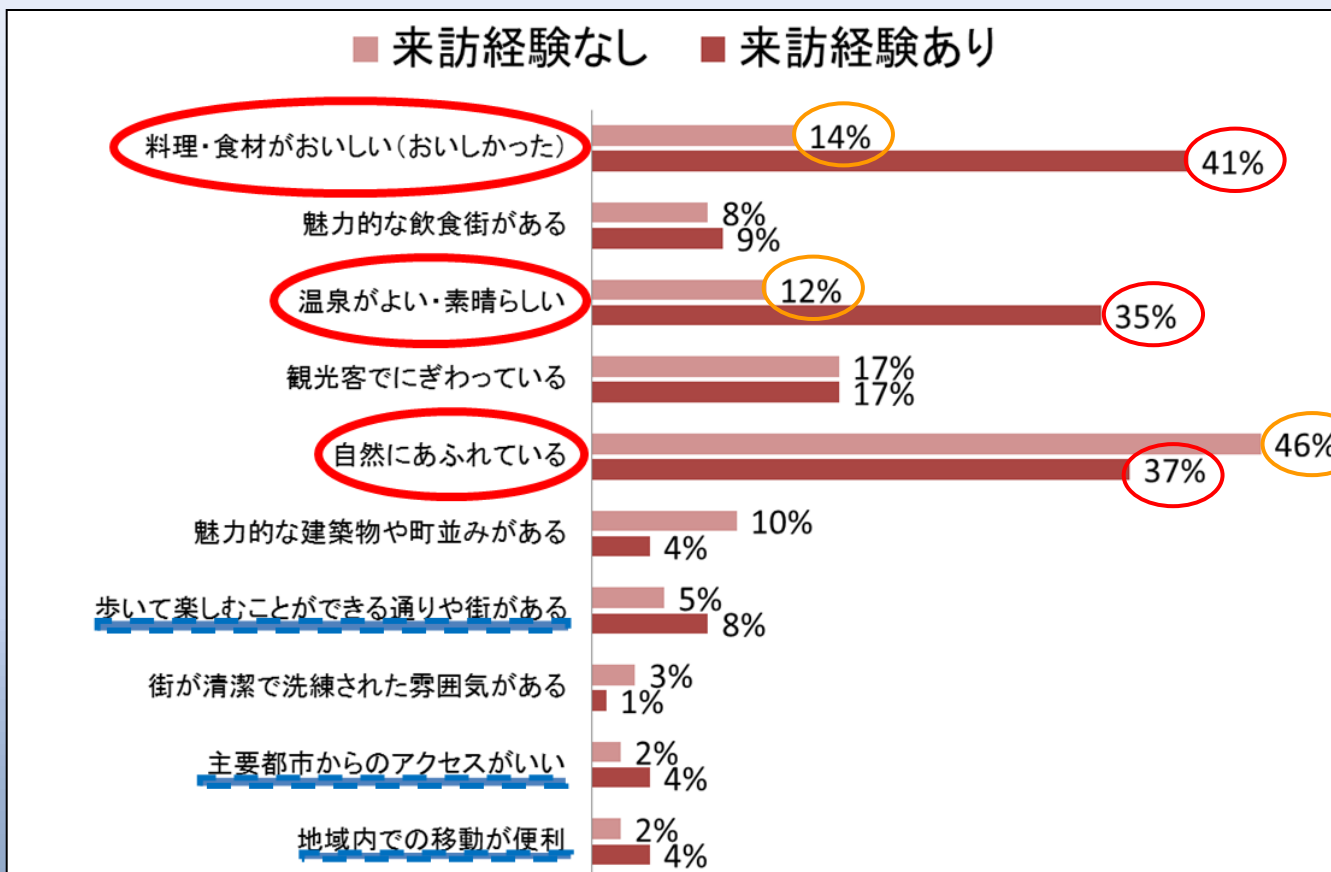


<出典>「海の京都」観光地域づくり戦略マーケティング調査(2017.3)

# I 観光の現状

## (5) 京丹後の3大イメージは、「食」、「温泉」、「自然」。

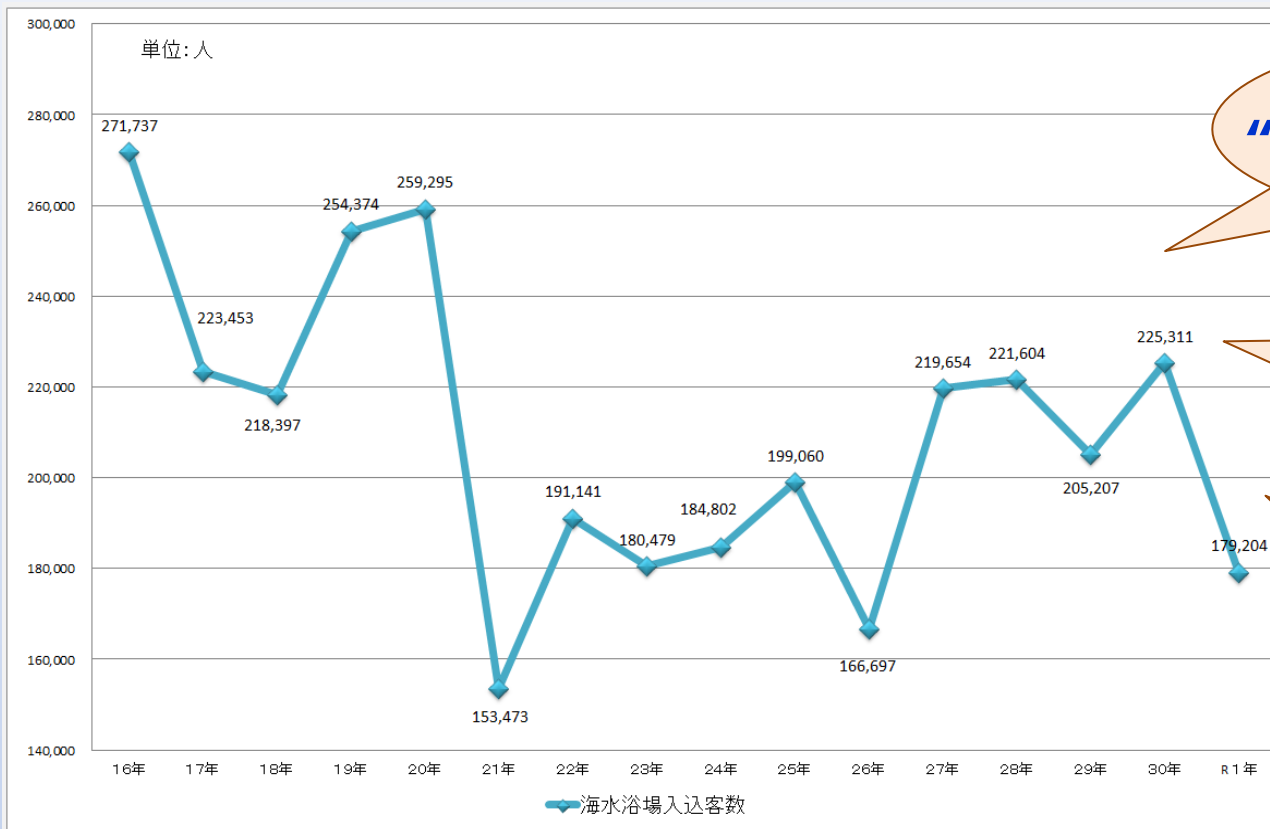
- ・「料理・食がおいしい」「温泉がよい」とうイメージは、「来訪経験なし」では低い。しかし、「来訪経験あり」では高く、来訪経験者による評価が高い。
- ・「自然にあふれている」というイメージは、「来訪経験なし」「あり」とも高い。



## II 観光の実態から見えてくる課題

# 「二季型観光」がもたらす“危うさ”

例えば・・・海水浴場観光入込客数の推移（H16年～）



“天候”で左右される入込

年間を通じた  
人材確保ができない

“かきいれどき”に  
災害が直撃したら・・・

**“通年で誘客”できる魅力（商品）づくりが必要！**



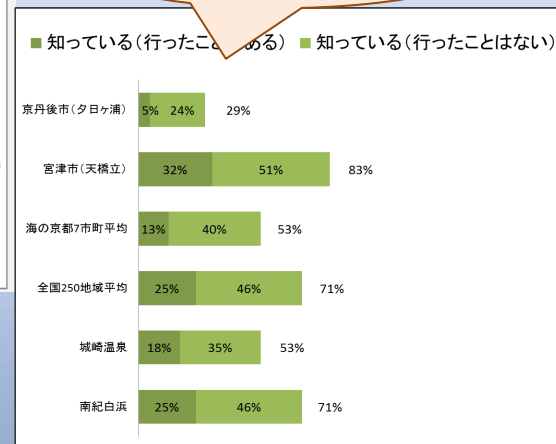
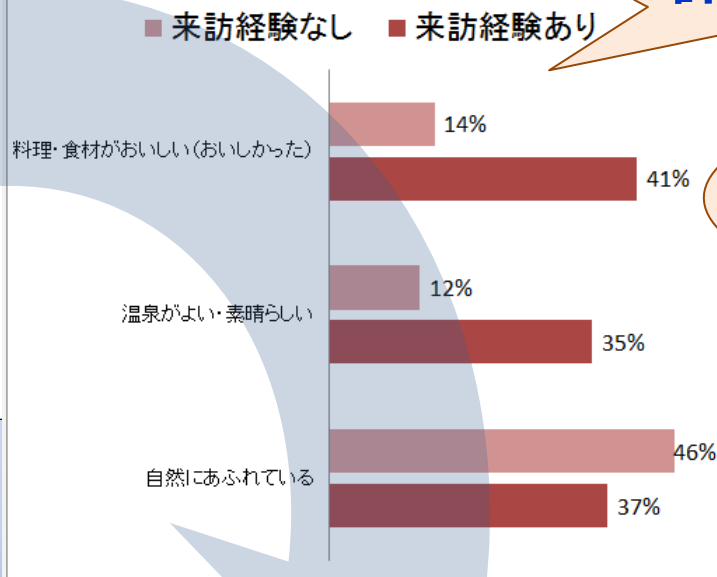
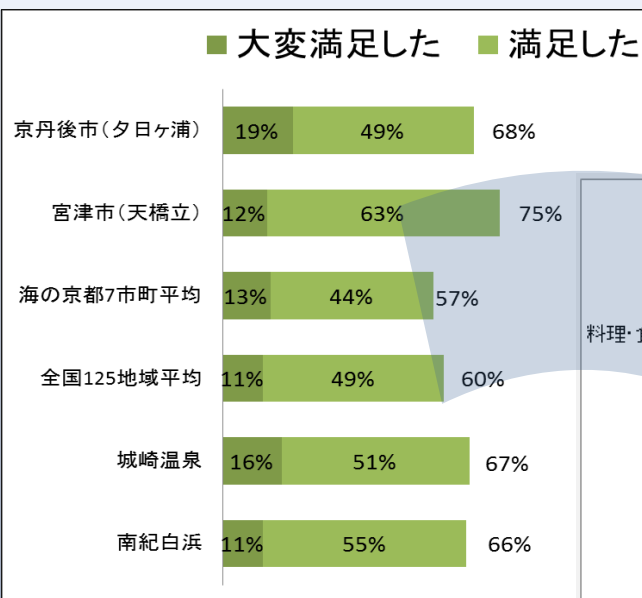
## II 観光の実態から見えてくる課題

# “素材”と“売り方”のミスマッチ

全国的にみても  
満足度が高く

実際に訪れた方の  
評価も高いのに…

7割以上の方に  
知られていない…



“売れる” 魅力を、“買える”相手に向けて発信！

### Ⅲ 課題を克服するために

- ① とがった“商品づくり”とインフラ整備
- ② 緻密な“マーケティング”
- ③ 戦略的な“プロモーション”

専門的な実施体制の必要性

京丹後市観光公社